

技 術 開 発 完 了 報 告

課題名	多雪地帯における針広混交林の育成				
継続・自主 区分	署自主	開発 期間	S58 ~ H4	担当者	造林係 係長 加藤 喜弘
目 標	広葉樹の耐雪性を利用して、スギ人工林に天然の広葉樹を共立させ、混交林の造成を図る。				
結 果	1, 試験地は標高680~700mで付近では比較的高いところに位置し風向もNEでかなり強風の当たる箇所である。また、降雪期間も11月下旬から5月上旬までと長く積雪量も2.50~3.00mとなる。枯損木の殆どは積雪によるもので寒風害によるものは今のところ見られない。			技術開発経費内訳 人・千円	
	2, 成長調査では、主林木は隣接の箇所と同様の成長をしているが広葉樹は主林木よりやや低めで多くの樹種が混生している。カンバ等は主林木を超える成長を見せているものもある。			物件費 役務費 人件費 定員内 基 職 その他 合 計	
開発経過と調査内容					
S58年度 固定試験地設定 植栽 スギ 0.60Ha 1370本					
S59年度 植栽木の成育調査 標柱建設					
S60年度 // 固定調査区域表示標設置					
S62年度 //					
H4年度 //					

年度別成長調査一覧表						
設定区	調査 種別	年 度 別 調 査 結 果 (cm・m/m)				
		昭和59年度	昭和60年度	昭和62年度	平成4年度	
59れ1	樹 高	45 39~51	68 60~75	151 131~172	348 278~401	
	根元径	9 8~10	14 12~17	37 28~51	83 67~95	
	残存数	1333 本	1331 本	1327 本	1304 本	
備 考						
調査成果は、調査区画(16区画)の平均値である。						
評価及び普及指導						
現在までの調査結果、雪害による枯損木はあったものの主林木は正常な成長をしているし一定の成果はあったと考察されることから当技術開発の完了報告をするが、今後も寒風害等の被害の観察が必要と思われる。						